

加藤 元繁：日本医療科学大学 保健医療学部 リハビリテーション学科  
作業療法学専攻 教授

学位：修士（教育学） （就任：平成19年4月）

○教育担当科目

心理学、コミュニケーション論、人間関係論、臨床心理学、卒業研究

○業績目録

I. 著書：単独著書、分担執筆（辞書、全集などを含む）、翻訳、編集および監修など

1. 社会福祉総説（共著）：学芸図書，加藤元繁；第18章 ボランティア活動，195-201，（編集：佐藤泰正），2004.
2. 学校心理学ガイドブック（共著）：風間書房，加藤元繁；第7章 学校教育における支援と介入の方法，86-91，（編集：学校心理士資格認定委員会），2006.
3. 発達障害の教育支援法（共著）：放送大学教育振興会，加藤元繁；固有のニーズへの教育支援，173-176，（編集：太田俊己・宮崎英憲・中坪晃一），2006.

△日本医療科学大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 就任後の著書

1. 学校心理学ガイドブック第2版（共著）：風間書房，加藤元繁；第7章 学校教育における支援と介入の方法；89-94，2007.
2. 障害科学の展開 障害科学とは何か（共著）：明石書店，加藤元繁；第4章第2節第5項 障害科学と臨床；221-229，（編集：中村満紀男・四日市章），2007.
3. 障害理解のための心理学（共著）：明石書店，加藤元繁；第4章第2節第2項 さまざまな心理臨床の形態と関連事項；340-349，（編集：長崎勤・前川久男），2008.
4. 現代社会のコミュニケーション論（共著）：学芸図書，加藤元繁；第12章 コミュニケーションスキルの開発・改善；126-137，第13章 コミュニケーションと心の支援；138-148，（編集：佐藤泰正・加藤元繁），2009.

II. 学術論文

①論文

1. 多田昌代，丸山恵美，加藤元繁：施設における盲重複障害者の日常生活スキルの促進．心身障害学研究，第25巻；185-196，2001.
2. 宮本昌美，加藤元繁：障害のある人々の選択決定に関する研究の展望．心身障害学研究，第26巻；153-162，2002.
3. 佐藤百合子，佐藤晋治，加藤元繁：統合保育場面に於ける発達障害児と健常児との社会的相互作用の促進に関する研究．心身障害学研究，第26巻；141-152，2002.
4. 多田昌代，加藤元繁：自閉的傾向を有する児童の困難課題遂行時の注目・模倣行動の促進．心身障害学研究，第26巻；21-32，2002.
5. 多田昌代，加藤元繁：自閉的傾向を有する児童の困難課題遂行児のモデルに対する注目・模倣行動を促進する要因の検討．特殊教育学研究，第40巻，第4号；401-410，2002.
6. 多田昌代，加藤元繁：発達障害児・者の支援に於ける確立操作概念の応用可能性に関する展望．心身障害学研究，第27巻；89-101，2003.
7. 多田昌代，加藤元繁：発達障害児の課題遂行行動の促進-刺激の好みと結果事象の予期が及ぼす効果-．心身障害学研究，第28巻；149-155，2004.

8. 多田昌代, 加藤元繁: カリキュラム介入が弁別学習の成立に及ぼす効果. 心身障害学研究, 第 29 巻; 163-170, 2005.
9. 多田昌代, 加藤元繁: Acquisition of mands through a behavior chain interruption strategy. Japanese Journal of Special Education, 第 42 巻; 513-524, 2005.
10. 加藤元繁, 江尻佳之, 小山智恵子, 多田昌代: 教育臨床に於ける機会利用型指導法の展開と適用 -不登校中学生への介入例を通して-. 心身障害学研究, 第 29 巻; 135-148, 2005.
11. 多田昌代, 加藤元繁: 御用学習における行動連鎖の遂行を促進する要因の検討 -活動における御用物品の必要性和当該場面における対象児の選好性が及ぼす効果-. 心身障害学研究, 第 30 巻; 71-80, 2006.

#### ②その他の論文

1. 多田昌代, 太田俊己, 加藤元繁: 発達障害児の社会的行動の促進 -行動連鎖の中断が注目・模倣行動に及ぼす効果-. 千葉大学教育実践センター研究紀要, 第 8 巻; 205-214, 2001.

#### △日本医療科学大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 赴任後のその他の論文

1. 加藤元繁・佐藤泰正: 心理臨床における正の行動支援の三者モデルの構造と展開. 日本医療科学大学研究紀要, 第 2 号; 33-40, 2009.
2. 加藤元繁: 社会的行動の機能的アセスメントに基づくインクルージョン場面への行動分析的介入の検討. 平成 9 年度～平成 11 年度文部省科学研究費補助金研究成果報告, 2000.
3. 柿澤敏文, 香川邦生, 加藤元繁, 千田耕基, 大内 進, 澤田真弓, 池谷尚剛, 中野泰志, 黒川哲宇, 猪平眞理, 他 3 名: パソコン活用による算数拡大教科書作成の研究, 弱視教育, 第 38 巻, 第 3 号; 1-6, 2000.
4. 加藤元繁: 発達障害を伴う弱視児の社会的行動の自発性促進に関する行動分析的研究. 平成 14 年度～平成 16 年度科学研究費補助金研究成果報告書, 2005.

#### IV. 学会および研究発表

##### 【国際学会】

##### ②一般演題などの発表

1. 竹村洋子, 野呂文行, 加藤元繁, 杉山雅彦: Free-Operant approach to the student's deviant behavior in a general classroom of elementary school. World Congress of Cognitive and Behaviour Therapy and the World Congress Committee, 2004.

##### 【国内学会】

##### ②一般演題などの発表

1. 多田昌代, 杉山雅彦, 前川久男, 加藤元繁: 発達障害児の模倣行動の促進 -要求場面を利用した機能的反応の適用-. 日本特殊教育学会第 38 回大会, 2000.
2. 佐藤百合子, 多田昌代, 加藤元繁: 機能分析の適用可能性に関する検討 (1) -サインによる要求行動形成における指導法アセスメントとして. 日本特殊教育学会第 39 回大会, 2001.
3. 多田昌代, 佐藤百合子, 加藤元繁: 発達障害児の注目・模倣行動の促進 (1) -課題遂行における行動連鎖の中断を媒介に-. 日本特殊教育学会第 39 回大会, 2001.

4. 多田昌代, 加藤元繁: 自閉的傾向を有する児童のスケジュール表利用 -不適切な要求行動と課題従事行動に及ぼす効果-. 日本特殊教育学会第 40 回大会, 2002.
5. 多田昌代, 加藤元繁: 確立操作による発達障害児の要求言語行動の促進 -課題の好み  
がプロンプト・レベルに及ぼす効果-. 日本行動分析学会第 20 回大会, 2003.
6. 多田昌代, 加藤元繁: 御用学習場面における各単位行動を促進する要因の検討. 日本特  
殊教育学会第 41 回大会, 2003.
7. 多田昌代, 加藤元繁: カリキュラム介入が弁別学習の成立に及ぼす効果 -数詞-数字マ  
ッチング課題における正反応率を中心に-. 日本行動分析学会第 22 回大会, 2004.
8. 多田昌代, 加藤元繁: 課題の機能性が弁別学習の成立に及ぼす効果 -色弁別課題にお  
ける正反応率を中心に-. 日本特殊教育学会第 42 回大会, 2004.
9. 多田昌代, 加藤元繁: 発達障害児におけるスケジュール表利用 -逸脱行動の生起率と  
課題の正反応率に及ぼす効果-. 日本行動分析学会第 23 回大会, 2005.
10. 多田昌代, 加藤元繁: 軽度発達障害児の学習を促進する要因の検討 -場面設定の違い  
がカタカナの弁別, 読みに及ぼす効果. 日本特殊教育学会第 43 回大会, 2005.

## V. 学術関連広報活動

### 【非常勤・併任関係】

1. 特殊教育諸学校教員免許認定講習講師; 1982~2005.
2. 茨城県スクールカウンセラー; 2002~2006.
3. 茨城県カウンセリングアドバイザー; 2003~2004, 2005~2006.
4. 国家公務員採用試験 I 種及び II 種試験試験専門委員; 1990~2003.
5. 特殊教育教員資格認定試験専門委員会委員; 1992~2006.
6. 学校心理士認定委員会委員; 2003~2006.
7. 筑波大学心理・心身障害教育相談室心身障害相談グループ長; 2001~2006.
8. 東京都スクールカウンセラー; 2006~2010.

### 【大学院研究指導】

#### 「博士論文指導」

1. 多田昌代: 発達障害児の支援における確立操作の応用可能性に関する検討-好みのアセ  
スメントに基づく機能的な行動連鎖の選択-. 筑波大学大学院心身障害学研究科平成 14  
年度博士論文, 2003.

#### 「修士論文指導」

1. 宮本雅美: 自閉的傾向がある子どもの選択肢の交換要求行動の促進 筑波大学大学院心  
身障害学研究科平成 13 年度修士論文, 2002.
2. 坂本真樹子: 発達障害児の音声模倣の促進. 筑波大学大学院教育研究科平成 13 年度修  
士論文.
3. 花輪希美圭: 広汎性発達障害児における社会的相互作用の促進. 筑波大学大学院教育  
研究科平成 16 年度修士論文, 2005.
4. 原口一郎: 日常場面における発達障害児とそのきょうだいの社会的相互作用の促進に関  
する研究. 筑波大学大学院教育研究科平成 18 年度修士論文, 2007.

## VI. 現在研究中のテーマ

1. 心理臨床における三者モデルの構造と展開
2. 言語行動による非言語行動の制御
3. 生態学的アプローチにおける機能分析の方法と応用